

問1 有機栽培の特徴として、正しいものはどれですか。

1. 農薬や化学肥料にたよらないで栽培する。 2. 乳牛をたくさん飼育して、牛乳やバターを生産する。 3. すずしい気候を利用して、出荷する時期を遅らせる。 4. ビニールハウスなどの施設を使い、あたたかい気候を利用する。

問2 漁港でとれたばかりの魚が集められ、買い手が値段を決めるために「せり」を行う場所を何とといいますか。

1. 魚市場 2. 冷凍庫 3. 水族館 4. スーパーマーケット

問3 農業試験場が、地元の農家のために行っている活動として正しいものはどれですか。

1. 地域の気候に適した栽培技術や新しい品種を研究する 2. 農作物の価格を全国一律に決める 3. 農作物を安く買い取ってスーパーへ売る 4. 農家から集めたお金を貯金したり貸し出したりする

問4 農家が収穫したお米を、市場などを通さずに消費者のもとへ直接送る販売方法を何とといいますか。

1. 市場経由 2. 産地直送 3. 卸売販売 4. 輸入販売

問5 大都市の近くで、消費者の好みに合わせて新鮮な野菜をたくさん作り、トラックを使って素早く届ける農業を何とといいますか。

1. 促成栽培 2. 近郊農業 3. 茶の栽培 4. 抑制栽培

問6 生産者が育てた野菜や果物を、スーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、お客さんに直接売る場所を何とといいますか。

1. 直売所 2. 自動販売機 3. デパート 4. コンビニエンスストア

問7 標高が高く、夏でもすずしい気候を利用して、キャベツやレタスを育てる農業を何とといいますか。

1. 近郊農業 2. 抑制栽培 3. 高冷地農業 4. 促成栽培

問8 林業において、木と木の間隔を広げて日光が地面まで届くようにし、木の成長を助けるための作業を何とといいますか。

1. 伐採 2. 下草刈り 3. 植林 4. 間伐

問9 畜産で生産されるもの（つくられるもの）の組み合わせとして、正しいものはどれですか。

1. 肉や牛乳、卵 2. 魚や貝、わかめ 3. 野菜や果物、米 4. 木材や炭、きのこ

問10 近郊農業を行う農家が、いろいろな種類の野菜を少しずつ計画的に作っている理由として、最も適切なものはどれですか。

1. 天気に左右されない野菜だけを選ぶため 2. 大都市の人々の様々なニーズに応えるため 3. 機械だけで全て自動で作れる野菜だから 4. 米をたくさん作るためにお金が必要だから

問11 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。

1. 将来にわたって魚をとり続けるため 2. 魚の値段を高くするため 3. 新しい漁場を発見するため 4. 外国との貿易を活発にするため

問12 林業で、木が十分に育ったあとに、それらを切り出して木材にする作業を何とといいますか。

1. 間伐 2. 枝打ち 3. 伐採 4. 植林

問13 遠くの海で行う漁業で、1970年代から生産量が大きく減り続けているものはどれですか。

1. 沿岸漁業 2. 沖合漁業 3. 遠洋漁業 4. 養殖業

問14 漁港の近くに「加工工場」があることで、どのような良さがありますか。

1. 魚を安く買うことができる 2. 魚を冷やすための氷を海から作るができる 3. 漁師が海で働く時間を短くできる 4. 獲った魚を新鮮なうちに加工して、製品として売ることができる

問15 その土地の気候や風土に合わせて、より育てやすくおいしい農作物の種類を新しく作り出すことを何と言いますか。

1. 適地適作 2. 品種改良 3. 農業協同組合 4. 食料自給率

問16 地産地消を行うことで、どのような良い効果がありますか。

1. 農作物の値段を、全国どこでも同じにすることができる 2. 農作物を運ぶトラックの燃料を減らし、環境を守ることができる 3. 大都市にある大きなスーパーに、たくさんの商品を並べられる 4. 外国との貿易を活発にして、いろいろな国の食べ物が増やせる

問17 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何とといいますか。

1. 農業協同組合 2. 農業試験場 3. 農村自治会 4. 農家連合会

問18 農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を何とといいますか。

1. 抑制栽培 2. 促成栽培 3. 有機栽培 4. 施設園芸

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 1 農薬や化学肥料にたよらないで栽培する。	有機栽培は、農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法のことです。
問2	答え 1 魚市場	漁港でとれた魚を全国の食卓へ届けるための大切な中継地点です。魚市場では、多くの買い手が集まって「せり」という方法で魚の値段を決めるため、漁業の流通にとって欠かせない場所となっています。
問3	答え 1 地域の気候に適した栽培技術や新しい品種を研究する	農業試験場は、農家が抱える「病害虫を減らしたい」「もっと収穫量を増やしたい」といった悩みを解決するために、科学的な実験や調査を行う場所です。お金の管理や農作物の販売は、主に農業協同組合（JA）が行う役割です。
問4	答え 2 産地直送	生産者が育てた作物を、市場や問屋を通さずに消費者に直接届ける仕組みを「産地直送」といいます。間にはさまる業者を減らすことで、新鮮な状態のまま消費者に届けたり、生産者の顔が見えて安心感を持ってもらえたりするなどの良い点があります。
問5	答え 2 近郊農業	大都市の近くで行われるこの農業は、消費者に新鮮な野菜を届けることが大切です。そのため、トラック輸送などを利用して、大都市の人々が求める野菜を計画的に出荷する工夫がされています。
問6	答え 1 直売所	生産者が自分で育てた農産物を、卸売市場やスーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、消費者に直接売る場所を「直売所」といいます。収穫したばかりの新鮮なものが手に入ることや、生産者の顔が見える安心感があることが大きな特徴です。
問7	答え 3 高冷地農業	標高が高い場所にある高原などは、夏でも気温が低くすずしいため、暑さを苦手とする野菜を育てるのに適しています。このような気候の特徴を活かした農業を高冷地農業と呼びます。
問8	答え 4 間伐	森の木々が育ってくると、木どうしが混み合って日光が当たりにくくなります。そこで、あえて一部の木を切り倒して間隔を広げる「間伐」を行うことで、残った木に十分な日光と栄養がいきわたり、丈夫に育つようになります。
問9	答え 1 肉や牛乳、卵	畜産は、牛や豚、にわとりなどを飼うことで、肉や牛乳、卵などを生産する仕事です。
問10	答え 2 大都市の人々の様々なニーズに応えるため	大都市には多くの消費者が住んでおり、好みが多様です。そのため、種類の野菜を大規模に作るのではなく、消費者の需要に合わせて様々な野菜を年間を通して供給することが、近郊農業の大きな特徴となっています。
問11	答え 1 将来にわたって魚をとり続けるため	一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまう。将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。
問12	答え 3 伐採	長い年月をかけて育てた木を、木材として利用するために切る作業のことを伐採といいますが、植林は苗木を植えること、枝打ちは節のないきれいな木にするために枝を切り落とすこと、間伐は成長を助けるために木を間引くことを指します。
問13	答え 3 遠洋漁業	遠くの世界で行う漁業を「遠洋漁業」といい、排他的経済水域の取り決めなどによって1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問14	答え 4 獲った魚を新鮮なうちに加工して、製品として売ることができる	獲った魚をすぐに加工することで、保存がきくようにしたり、料理しやすくしたりできます。このように工夫することで、魚の価値を高め、おいしい状態で全国に届けることができます。
問15	答え 2 品種改良	品種改良とは、より病気に強く、味や見た目が優れた農作物を生み出す技術のことです。農業試験場では、地域ごとの気温や土壌の特徴に合わせて、この品種改良がさかんに行われています。
問16	答え 2 農作物を運ぶトラックの燃料を減らし、環境を守ることができる	地元で生産されたものを地元で消費することで、遠くまで運ぶ必要がなくなります。これにより、トラックなどが排出する二酸化炭素を減らせるため、地球環境を守ることにつながります。また、地域の農家が元気になり、地域の産業が活性化するという良さもあります。
問17	答え 1 農業協同組合	農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。
問18	答え 3 有機栽培	農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を有機栽培といいます。